

21 世紀 C O E 「京都大学化学連携研究教育拠点」外国人講演会 開催報告書  
(理学研究科) 林 民生

研究集会名：理学研究科化学専攻 有機化学セミナー

演者： Professor Guy C. Lloyd-Jones (University of Bristol, UK)

演題：“Some Stereochemical Aspects of Organometallic Reactions”  
“On the 'Ene-then-yne', versus 'Yne-then-ene' Mechanisms for  
Ru-Catalysed Enyne Metathesis”

場所・日程：

京都大学工学研究科 A 2 棟化学系講義室 5 2004 年 3 月 22 日 16:00-

京都大学理学研究科 2 号館第 2 講義室 2004 年 3 月 23 日 16:00-

京都大学化学研究所 4 階西セミナー室 2004 年 3 月 24 日 13:30-

総参加者概数： 約 80 名

講演内容：

Guy C. Lloyd-Jones 教授は、有機金属触媒による有機反応における反応機構解明を主眼においた研究を中心に、幅広い研究活動を行っている現在活躍中の若手研究者である。今回は、Heck 反応などの触媒サイクルで鍵ステップとなるパラジウム・アルキル種の  $\beta$ -水素脱離の立体化学、および、モリブデン触媒によるアリル位置換反応の立体化学について、重水素ラベルを用いる実験手法により解明し、その成果についての講演を行った。パラジウム・アルキル種の  $\beta$ -水素脱離においては、syn 脱離で進行することを示し、モリブデン触媒によるアリル位置換反応においては、酸化的付加、求核攻撃ともに立体保持で進行することを示した。

